

長崎高教組新聞

発行
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号
長崎高教組会館 長崎県高等学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集責任者 大場 雅信 一第10号

メールアドレス
naga-kks@fslinet.or.jp

夏季闘争7・25 中央行動 2000人結集

ゆきとどいた教育の実現を求め 「えがお署名」を文科省に提出!

7月25日、全教・教組共闘・全労連・国民春闘共闘は、国民要求実現7・25中央行動にとりくみました。

消費増税、社会保障制度改革推進法案、大飯原発再稼働、オスプレイ配備、TPP参加問題など野田内閣の国民の声を無視した悪政の強行に對して、雇用や暮らしを守る予算の実現を求め、財務省、総務省、文科省前での要求行動を行いました。全国から、国家公務員労働者、自治体労働者、教職員など2000人が参加、長崎からは本部執行員2人、島原・大村・北松支部から3人、計5人が参加しました。



総務省前でのシュプレヒコール



文科省へ「えがお署名」提出

「えがお署名」五万五千筆提出

文科省前要求行動では、職場からの怒りを集約した「えがお署名」約五万五千筆、決議三千三百を提出し、「教育予算

の充実」「教職員の定数増」「退職金改善撤回」「労働基本権の回復」などを求めてシュプレヒコールを行いました。

総務省前行動で 大いに奮闘!

日比谷野外音楽堂での全体集会后、長崎高教組は総務省前要求行動に参加しました。要求行動では、各地からの参加者から「退職金が400万円も下がると老後の生活が描けない」「賃金・退職金の引き下げは、若者への影響が大きい。見過ごせない問題」などの発言がありました。長崎から参加した5人は、改めて、今「身を切る改革」として行われている公務員賃金への攻撃は、人事院勧告を無視した憲法違反の行為であること、また、公務員採用の六割減・教職員定数の抑制を含めて、消費増税を国民に押しつけるための露払いであり、国民を分断するための攻撃であることを確認しました。

を行進しました。4時間を超えるとりくみとなりましたが、消費増税、公務員賃金・退職金改善阻止のたたかいはこれからの正念場です。国民のくらしの向上のため、賃金、雇用、社会保障などがどうあるべきかを改めて問い直すという国民的共同のとりくみを広げることが必要です。

女性部学習会・定期総会

マンガ家の西岡由香さん(長崎市平和宣言起草委員)が講演

長崎高教組女性部は7月29日、学習会と第28回総会を開催し、学習会には17人、総会には13人が参加しました。午前中の学習会では、マンガ家で長崎市の平和宣言起草委員でもある西岡由香さんの講演を聞きました。

自然エネルギー転換への共感広がる

講演では、①ピースボートで世界各地の戦争の惨禍を見てまわった経験から、マンガを通して平和をつくるのとくみをはじめ、②原発事故の影響で苦しんでいる福島の人たちの状況と放射能・放射線についての基礎知識、③放射性廃棄物を出し続け、被曝労働を前提にしている原発の問題点、④自然エネルギーの可能性と、自然エネルギー開発による地域おこしのとりくみの状況が語ら

役員を選出、運動方針確認

午後の総会では、新年度の役員を選出し、運動方針や県教委への要求書の内容を確認するにとともに、参加者から職場の状況が報告されました。その中では、一月の超勤が100時間を超えている職員を教頭が把握しておらず、調査するだけになっていて、「土日の補習が多く、共働きの職員で、子どもを学校に連れてきて、補習をしている人もいる」と、再任用の話が出ると、「その前に定年までは働けないと言う人が多い」などの状況が出されました。そして、



国会請願デモ行進

県立学校職員採用試験対策学習会(「実習助手」対象)開催!

「実習助手」希望者7人が参加
8月4日(土) 13:00
高教組会館にて、初の実習教員対象の採用試験対策学習会を行いました。工業、農業の実習教員希望者7人が参加。講師は高校現場の教師が担当しました。全員が働きながらの参加で、なかなか勉強する時間がとれないこともあり、参加してとても良かったという声が多く寄せられました。

第2回対策学習会
日時: 8月24日
場所: 高教組会館 (長崎市中川2丁目5番)

9月以降に予定している女性部の県教委交渉の中心として、改善を求めるとを確信しました。

西岡さんの講演～映像を見ながら、原発問題・エネルギー問題について考えました。～



2012年度 全国定通教育学習交流集会在仙台 「高校生と修学権について」討論

7月27日(金)～28日(土)、2012年度全国定通教育全国学習交流集会在宮城県仙台市フォレスト仙台にて開催され、長崎高教組から教員3人と生徒、保護者1人ずつの計5人が参加しました。学習会のテーマは、「学ぶ 働く つながる 震災復興編」～高校生と修学権～

初日は福島大学准教授で反貧困ネットワークふくしま共同代表の丹波史紀さんが「東日本震災と復興とこれから」と題して講演を行いました。講演の主な内容は次の通りです。

首都圏に避難した小学生が、リレーチームが負けた際、「福島からおまえがきたから負けた」と言われた、いじめの原因もなっている。40年近く首都圏に電力を供給してきたのにどうして子どもがいじめに合わないといけないのかという親の嘆きが聞こえてくる。さらに、就学援助を受ける児童生徒の割合が10%くらいだったのが70%近くに急増。深刻な問題である。浪江町では復興計画に「一人一人の暮らしの再建を目指すこと」に加え、「ふるさと浪江を再生する」「受け継いだ責任、引き継ぐ責任」を掲げている。子どもは浪江に帰りたいと思っている。住める町になって欲しいと願っている。8割の子どもが浪江の友達と会えなくなったことを一番の

困りごととしてあげている。子どもたちが「きれいで安全な町」「自然豊かなまち」「明るく賑わいのあるまち」という町への愛着をもち、震災前の浪江に戻って欲しいと感じている。子どもが大人につきつめた要求を町の復興目標としているのが印象的だった。

オープニングセレモニー



「高校生フォーラム」 長崎県の高校生も発言

続いて「高校生フォーラム」では本県の高校生も含め9人の高校生がパネラーとして参加。「学校をやめる生徒がいること」「生徒会活動」「学費のこと」「先生への気持ち」のテーマ別に高校生が自分の考えを語りました。その中で、生活保護を受けている生徒がアル

被災地の様子に生で触れよう 機会を得たことの意義は大きい

午後のはじめはフリージヤーナリストの平館英明さんによる福島からの特別報告が行われ、除染が進んでいないのに、学校はプールや運動会を再開するなど無理に復興をアピールしていることが語られ、すでに福島第一原発事故の問題が風化し始めていることを指摘しました。

最後のパネルディスカッションでは、4人のパネラーを中心に「震災と修学保障」というタイトルで話が進みましたが、中でもサポートステーションの話が大きい盛り上がりを見せました。サポステの職員を学校に定期的に招いて、生徒の就業に役立てている実践や特別支援を必要とする生徒の就労体験(中間就労)による生徒の成長が各県から報告されました。仙台の町に出ると、地震や津波があったことを疑うほど、町は活気あふれています。しかし、周



リレートークで発言する高校生

2日目午前のリレートークでは、大阪府春日丘高校の生徒会では震災の翌日から「まず何かをしなければ」ということで生徒会が集まり、募金活動をはじめたことが報告されました。また、「生徒会で写真入りのメッセージを宮城県東松島高校に送ったことで、生徒会同士の交流が始まり、今回東松島高校を訪問して、マスコミで報道されたい部分を多く知ることができた」と述べました。さらに交流活動を通じて自分

リレートークで 高校生の生の声を聞く

を成長させることができたとすることも生徒自身から語られました。

地元宮城県の生徒からは、「地震と津波の被害で、家族がバラバラに暮らすことになった。『大丈夫?』と聞かれたら無理して『大丈夫』と答えていた。しかし、実際はつらかった」との発言もありました。

テレビでは報道されない高校生の生の声を聞くことができ、改めて住民の立場に立った復興対策の必要性を感じました。



津波の傷跡・石巻市立女子商業高校体育館

2012年度 夏季教研にいこう!

今年度も夏季教研が間近となりました。今年度は、元都立三鷹高校・校長土肥信雄さんを講師に迎え、「学校にこそ言論の自由を」と題して講演をお願いいたします。同僚を誘って参加してみませんか。

生徒のこと、学校の状況など本音を出し合って語り合ってみませんか。

8/10、11
大崎くじゃく荘(川棚)

夏季教育研究集会

日時 8月10日 13:30 から
11日 12:40 まで

場所 大崎くじゃく荘(川棚町)

- 分科会
- 第一分科会：平和・人権
 - 第二分科会：生活指導・自治的活動
 - 第三分科会：登校拒否・不登校・高校中退
 - 第四分科会：参加と共同の学校づくり
 - 第五分科会：民主的職場づくり
 - 第六分科会：学校図書館
- ※第一日目は夕食交流会を予定しています。交流会にも参加しよう。